

第5回 <著書を語る、著者と語る>

講師：北村皆雄（きたむら・みなお）

風狂を生きる——俳人井月の幕末維新



日時：2016年2月27日（土） 午後2時～4時

会場：武蔵野市民会館・集会室（地下1階、定員60人）

（東京都武蔵野市境2-3-7 ☎：0422-51-9144）

JR・中央線「武蔵境」駅・北口から徒歩5分

（「すきっぷ通り」を北へ行き、最初の信号で左折、次の信号で右折、すぐ前方右側）⇒下図参照

参加費：1,500円

主催：出版NPO「本をたのしもう会」

講師と間近に語りあえる小規模の講演会として、2013年から始めた「著書を語る、著者と語る」会も、今回5回目を迎えます。今回は映画監督の北村皆雄さんをお招きします。

始めに北村さんが監督として製作された映画『ほかいびと 伊那の井月』を上映し、続いて、主人公の近年注目を集める放浪の俳諧師、井上井月をめぐってお話をさせていただきます。

「ほかい（寿・祝）びと」とは、家々を訪ねて赤子の誕生を喜び、病気を見舞い、長寿を言祝い、死を悼む歌を供した放浪の乞食者のこと。映画は、幕末維新期の激動の時代、酒の入った瓢箪と杖以外は無一物に徹し1800句もの名作を遺して死んだ風狂流浪の俳人井月の生き方を描きます。井月役を演ずるのは、人気の舞踊家・俳優の田中泯。自然を詠み、自然に自らの思いを託した花鳥風月の放浪俳人に思いを寄せ、日本の自然の美しさと民俗文化の豊かさを描きだしたこの作品は、日本人の根底にある自然観や思想、信仰に迫る力作です。映画はフランス、イタリア、ドイツ、中国でも上映され、好評を博しました。

講演では、映画に込めた思いとともに、最新著『俳人井月——幕末維新 風狂に死す』（岩波書店）で監督が浮彫りにした転換期日本の歴史の実相と、芭蕉を崇拝し風狂に死んだ井月の文学的な、また文化史における意味について語られます。

<講師プロフィール> 1942年、長野県伊那市生まれ。早稲田大学第一文学部演劇科卒。映画監督、(株)ヴィジュアルフォークロア代表。「映像人類学・民俗学」を標榜してアジアをフィールドに作品を作る。映画『見世物小屋』『修験』『アカマタの歌』ほか。TVドキュメンタリー「チヨモランマの渚」（テレビ朝日）、「チベット大河紀行」（NHKスペシャル）、「風と光と！幻の漂海民」（TBS）ほか。著書『つな引きのお祭り』（福音館書店）ほか。

